

【特別招待講演2】 第17席**『鍼経指南』の研究**

中国・上海 李鼎

竇黙の『鍼経指南』は、何若愚の『子午流注鍼経』などとともに、金元鍼灸において特に重要な意義を持つ著作の一つである。隋唐時代を通じて灸法が中心であったためとみられる鍼灸医学において、鍼法の重要性を再認識させた意義を私達は極めて重要視している。また現行の伝統的鍼法は多く本書（あるいは本書所収の歌賦など）を源泉としており、本書の研究は鍼灸の手技・手法の発展にとって大きな意味があると考えられる。また明清に至るまで中国鍼灸に深い影響を及ぼし続けた『標幽賦』などの著名な鍼灸歌賦が収録されていることも注目される。

李鼎先生は『鍼経指南』の研究書を著されている。特別招待講演2では、本書の内容について、最新の研究成果に基づいた研究発表をお願いする予定である。

(文責：篠原孝市)